

# 18

## 読み込んだファイリングデータを表示器に戻したい！

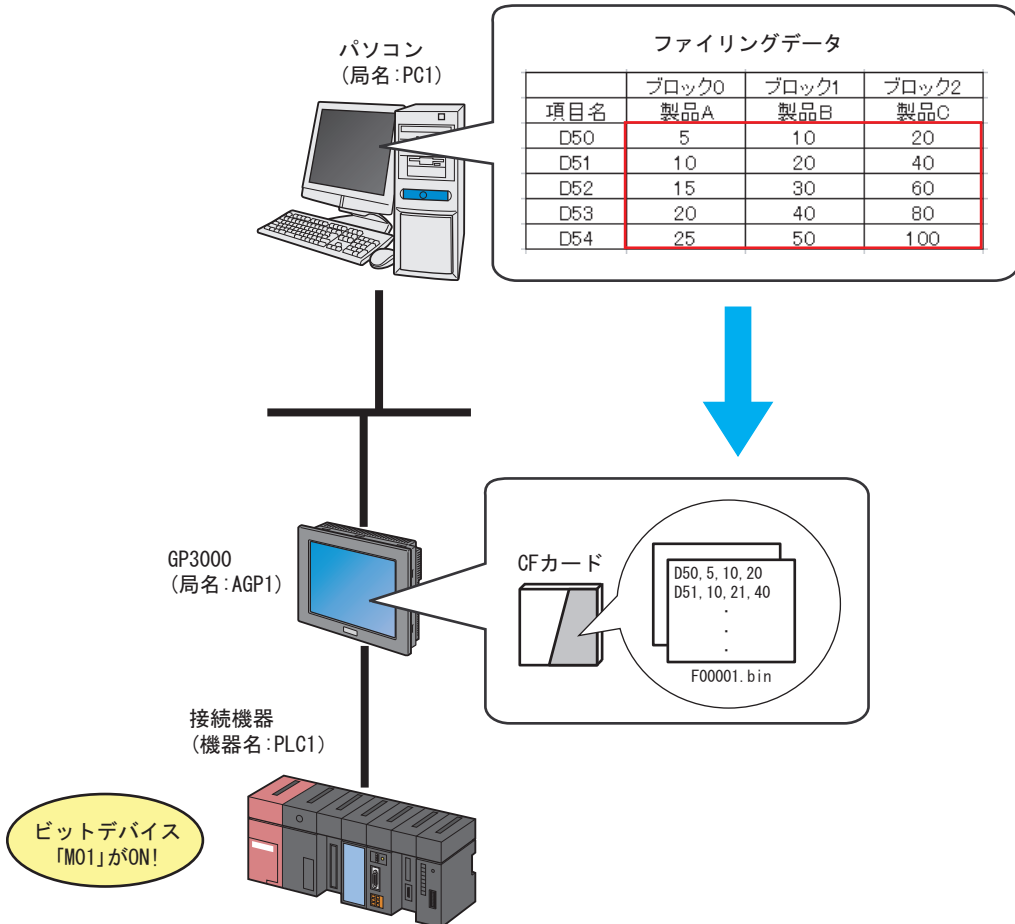
18.1	ファイリングデータを表示器にダウンロードしてみよう！ .....	18-2
18.2	設定ガイド .....	18-20
18.3	制限事項 .....	18-21

## 18.1 ファイリングデータを表示器にダウンロードしてみよう！

- MEMO** ・ ファイリングデータの詳細については、『GP-Pro EX リファレンスマニュアル』をご覧ください。

### 【動作例】

接続機器のトリガデバイス（ビットデバイス：「M01」）の立ち上がりを検出し、読み込んだ Excel のファイリングデータを、表示器の CF カードのファイル「F00001.bin」に書き込む



この節では、例として、上記の動作（アクション）を行うための設定を順番に説明します。

- MEMO** ・ ダウンロードは、一旦表示器からアップロードされたデータのみ可能です。  
・ ファイリングデータは、修正して表示器に戻すことができます。

【設定手順】

1	『Pro-Studio EX』の起動 (18-4 ページ)	『Pro-Studio EX』を起動します。
2	参加局の登録 (18-4 ページ)	パソコンと表示器を参加局として登録します。
3	シンボルの登録 (18-5 ページ)	起動条件 (トリガ) となる接続機器のデバイスをシンボルとして登録します。
4	機能 (アクション) のパラメータ設定 (18-6 ページ)	以下の項目を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保存元</li> <li>• ファイル名</li> <li>• GP タイプ</li> <li>• 書き込み先</li> </ul>
5	起動条件の設定 (18-10 ページ)	ファイリングデータを書き込む条件 (トリガ) を設定します。
6	アクションが受け取るデータの設定 (18-13 ページ)	データを書き込む CF カードのフォルダ番号となる定数値を設定します。
7	アクション動作局 / 処理完了通知の設定 (18-15 ページ)	アクションの動作局およびアクションが実行されたことの通知の有無を設定します。
8	設定内容の確認 (18-17 ページ)	設定内容一覧画面で、設定した内容を確認します。
9	ネットワークプロジェクトファイルの保存 (18-19 ページ)	設定した内容をネットワークプロジェクトファイルとして保存し、リロードします。
10	ネットワークプロジェクトファイルの転送 (18-19 ページ)	保存したネットワークプロジェクトファイルを表示器に転送します。
11	アクションの実行 (18-19 ページ)	設定した起動条件が有効になると、Excel のファイリングデータが表示器の CF カードに書き込まれます。

### 18.1.1 『Pro-Studio EX』の起動

『Pro-Studio EX』を起動します。

起動方法の詳細については、「第3章 かる〜く Pro-Server EX を体験してみませんか？」をご覧ください。

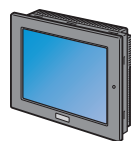
### 18.1.2 参加局の登録

ネットワークに接続しているパソコンと表示器を、参加局として登録します。

参加局の詳細については、「第31章 参加局登録について」をご覧ください。



局名 : PC1  
IPアドレス : 192.168.0.1



局名 : AGP1  
IPアドレス : 192.168.0.100

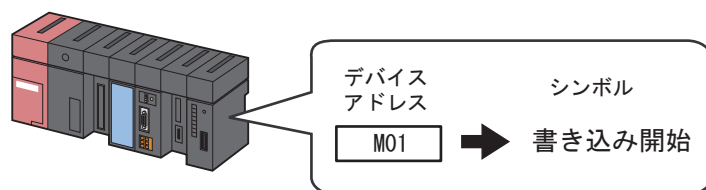
接続機器情報

#### 設定例

参加局	設定項目	設定内容
パソコン	局名	PC1
	IP アドレス	192.168.0.1
表示器	種類	GP3000 シリーズ
	局名	AGP1
	IP アドレス	192.168.0.100

### 18.1.3 シンボルの登録

起動条件となる接続機器のデバイスアドレスをシンボルとして登録します。  
シンボルの詳細については、「第 32 章 シンボル登録について」をご覧ください。

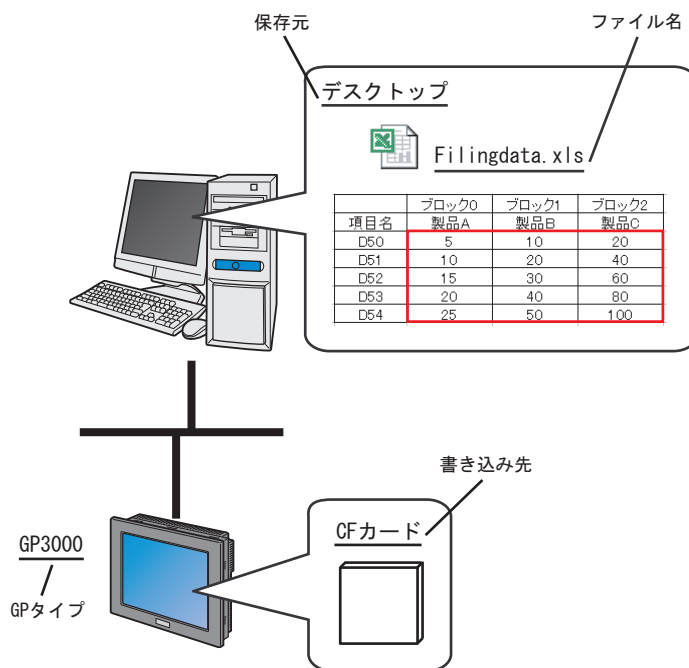


#### 設定例

設定項目	設定内容
シンボル名	書き込み開始
データタイプ	ビット
シンボル登録するデバイスアドレス	接続機器 (PLC1) の「M01」
データ個数	1

## 18.1.4 機能（アクション）のパラメータ設定

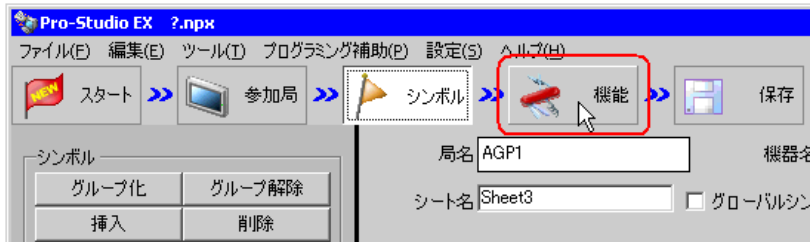
ファイリングデータを書き込むための設定（パラメータ設定）を行います。  
アクションパラメータの詳細については、「18.2 設定ガイド」をご覧ください。



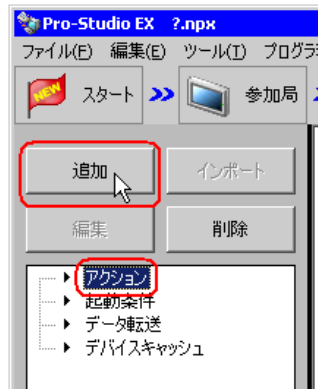
### 設定例

設定項目	設定内容
アクション名	ファイリングデータダウンロード
保存元	パソコンのデスクトップ
ファイル名	Filingdata.xls
GPタイプ	GP3000
書き込み先	CFカード

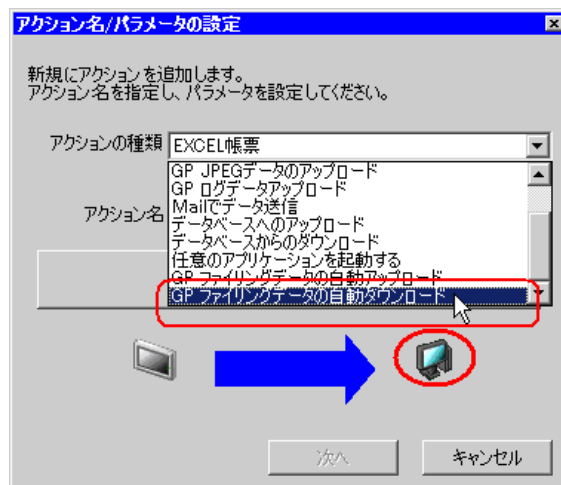
- 1 状態バーの [機能] アイコンをクリックします。



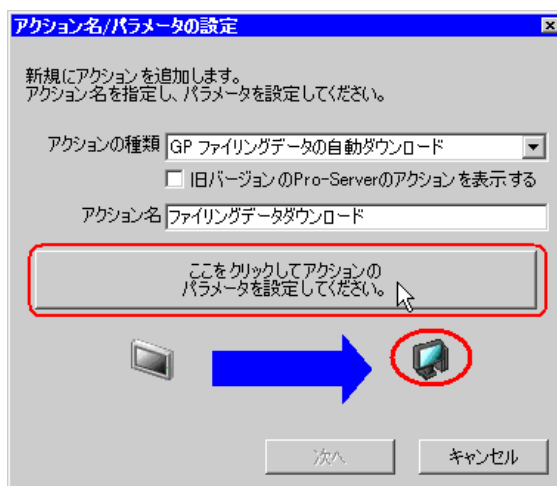
- 2 画面左のツリー表示から、「アクション」を選択し、[追加] ボタンをクリックします。



- 3 [アクションの種類] のリストボタンをクリックし、「GP ファイリングデータの自動ダウンロード」を選択します。  
続いて、[アクション名] に設定するアクション名「ファイリングデータダウンロード」を入力します。

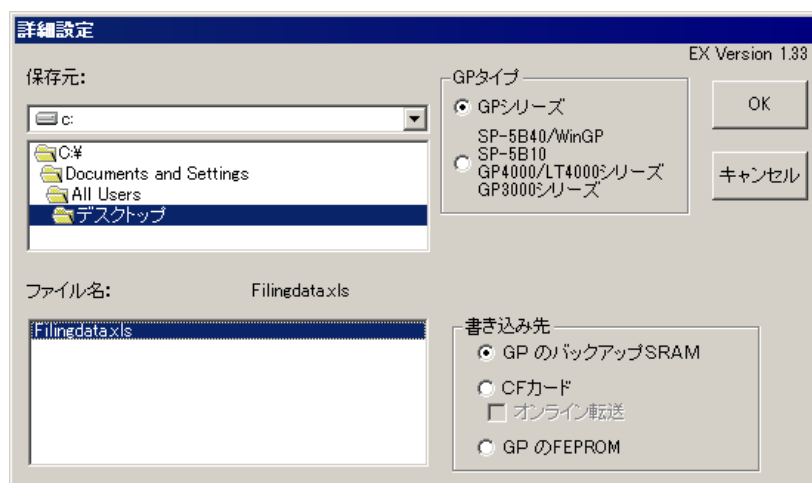


- 4 [ここをクリックしてアクションのパラメータを設定してください。] ボタンをクリックします。



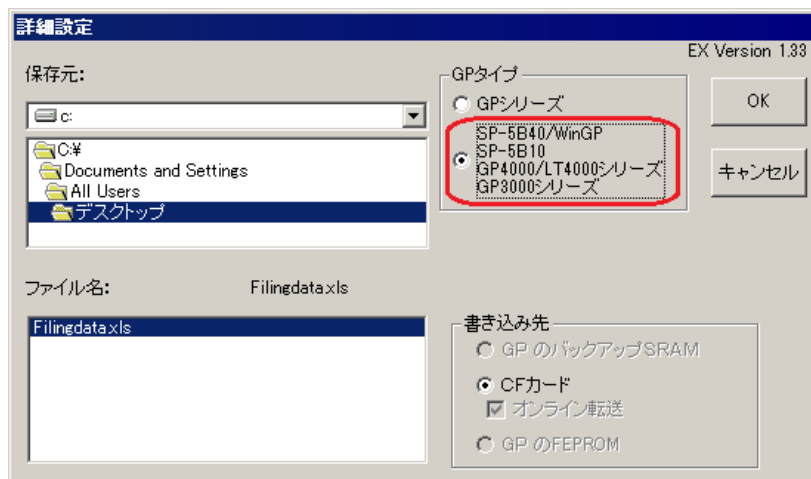
- 5 ダウンロードするファイリングデータを選択します。

[保存元] に、データが読み出されるファイルの保存先フォルダ「デスクトップ」を設定し、ファイル名は「Filingdata.xls」を選択します。





- 6 [GP タイプ] で、[SP-5B40/WinGP SP-5B10 GP4000/LT4000 シリーズ GP3000 シリーズ] をチェックします。



書き込み先が自動的に [CF カード] に設定されます。

- 7 [OK] ボタンをクリックします。

以上で、機能（アクション）の設定は終了です。

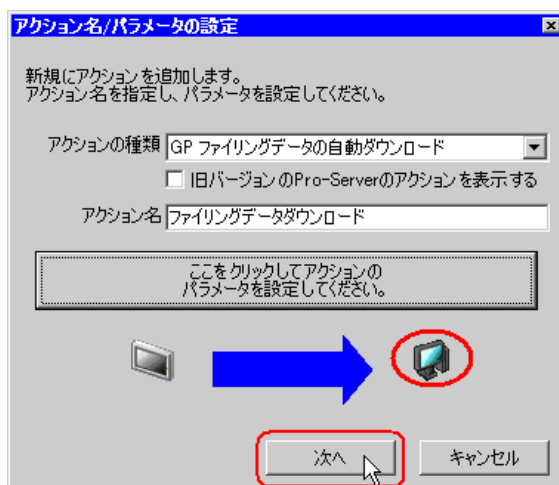
## 18.1.5 起動条件の設定

ファイリングデータを書き込む条件（トリガビット ON）を設定します。  
起動条件の詳細については、「第 33 章 起動条件について」をご覧ください。

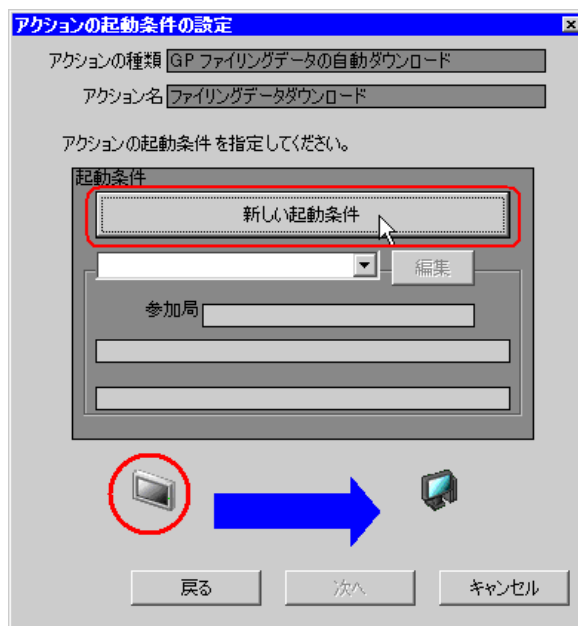
### 設定例

- 起動条件名 : 書き込み開始ビットを ON する
- 起動条件 : 「書き込み開始」(M01) ON 時

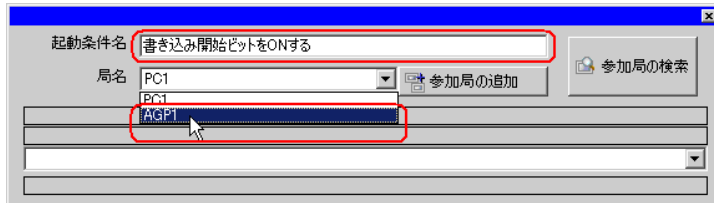
1 「アクション名/パラメータの設定」画面で、「次へ」ボタンをクリックします。



2 [新しい起動条件] ボタンをクリックします。



- 3 [起動条件名] に、起動条件名「書き込み開始ビットをONする」を入力し、[局名] に、起動条件となるデバイスを持つ局名「AGPI」を選択します。

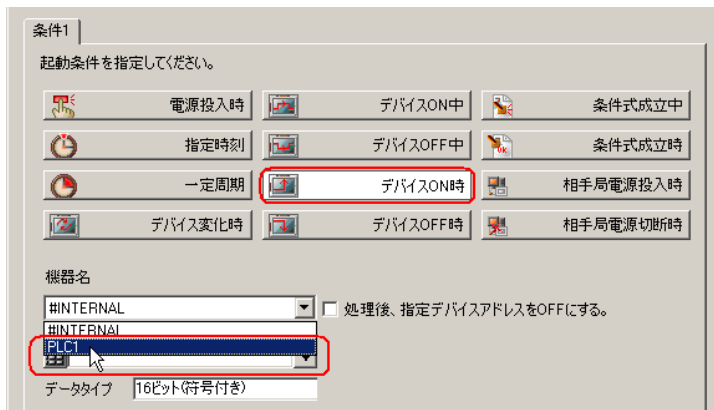


**MEMO**

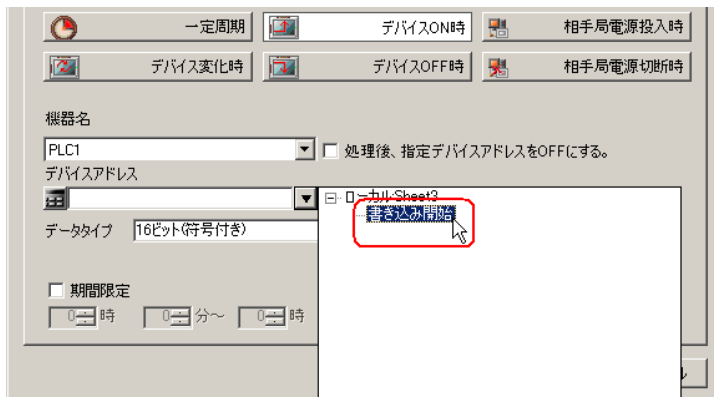
- ここで設定する局名は、起動条件となるデバイスを持つ参加局を指定します。

👉「第 33 章 起動条件について」

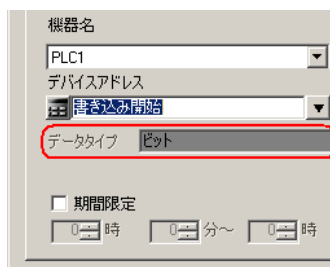
- 4 [条件 1] タブの [デバイス ON 時] ボタンをクリックし、機器名に「PLC1」を選択します。



- 5 [デバイス] のリストボタンをクリックし、起動条件となるデバイスのシンボル名「書き込み開始」を選択します。



選択後、[データタイプ] も自動的に表示されます。



- 
- MEMO** • 起動条件については、2種類の異なる条件の組み合わせ（「かつ」（and 条件）、「または」（or 条件））により設定することもできます。

☞「第 33 章 起動条件について」

---

6 [OK] ボタンをクリックします。

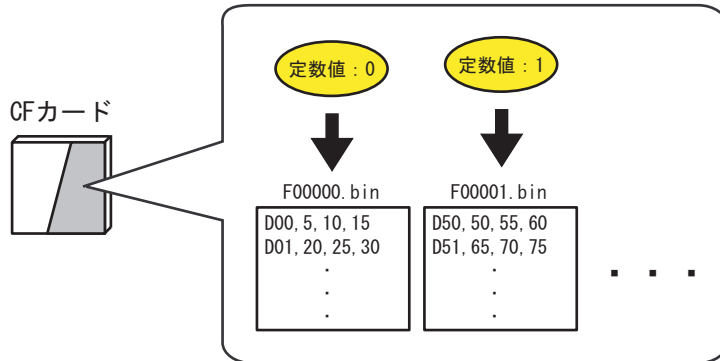
以上で、起動条件の設定は終了です。

## 18.1.6 アクションが受け取るデータの設定

アクション動作時に転送するデータを設定します。

### MEMO

- データの書き込み先が CF カードまたは FEPROM の場合、ここで設定する転送データが CF カードまたは FEPROM のファイル番号となります。ファイル番号は、「F\*\*\*\*\*.bin」の \*\*\*\*\* の番号に該当します。

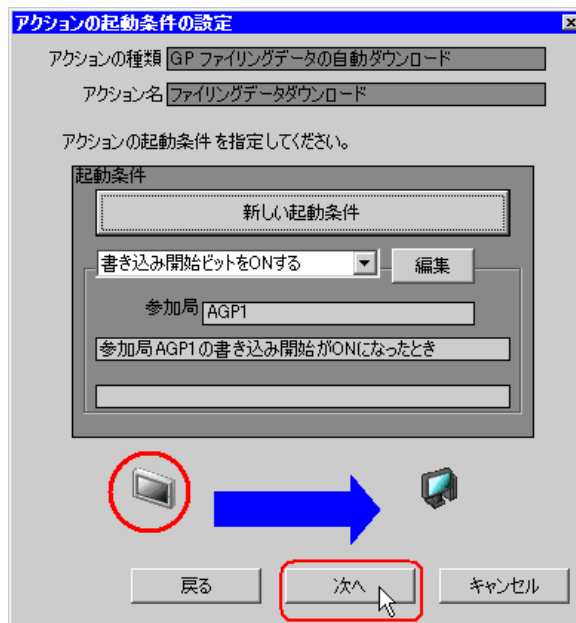


書き込み先がバックアップ SRAM の場合、転送データはどんな値でも構いません。

### 設定例

- 転送する定数値 : 1

1 「アクションの起動条件の設定」画面で、[次へ] ボタンをクリックします。



- 2 [定数値] をクリックしたあと、テキストボックスに転送する定数値「1」、[個数] に「1」を入力します。

アクションが受け取るデータの設定

アクションの種類 GP ファイリングデータの自動ダウンロード

アクション名 ファイリングデータダウンロード

このアクションは起動局から  
ファイル番号

をデータとして受け取り動作します。データ値には起動局のデバイス値が定数  
を利用できます。データを指定してください。

転送元

参加局  
AGP1

機器名  
#INTERNAL

デバイスアドレス

定数値

1

データタイプ 16ビット(符号付き) 個数 1

戻る 次へ キャンセル

- MEMO** • シンボルやデバイスアドレスを指定し、格納されている値を転送データとすることもできます。

以上で、アクションが受け取るデータの設定が終了しました。

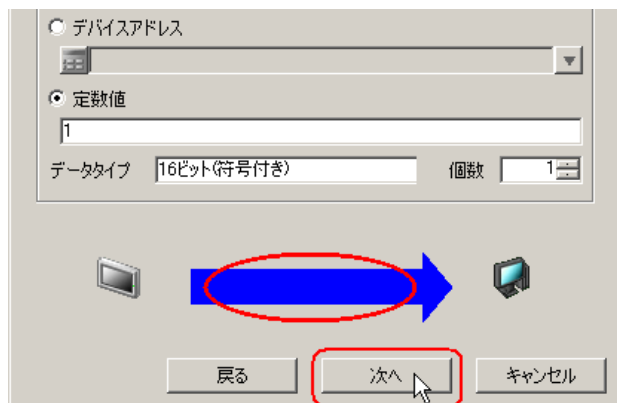
## 18.1.7 アクション動作局 / 処理完了通知の設定

アクションが動作する局名、およびアクションが実行されたことの通知の有無を設定します。

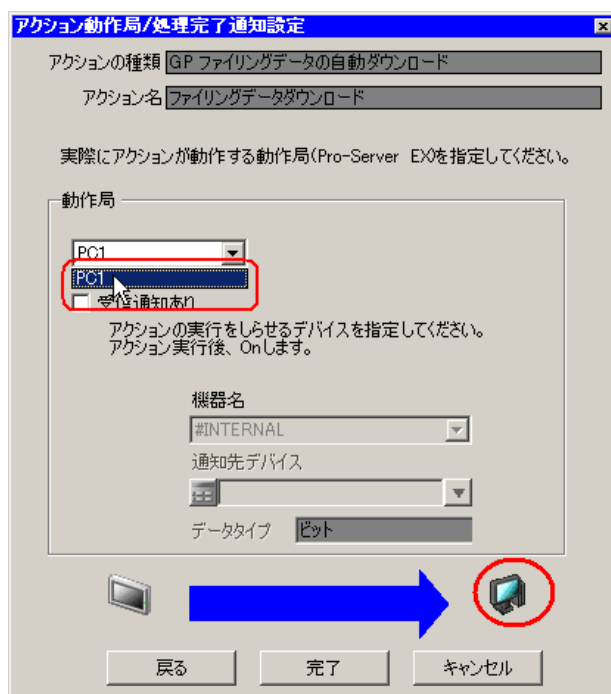
### 設定例

- 動作局 : PC1
- 受信通知 : なし

1 「アクションが受け取るデータの設定」画面で、[次へ] ボタンをクリックします。



2 [動作局] のリストボタンをクリックし、アクションが動作する局名「PC1」を選択し、[受信通知あり] がチェックされている場合は、チェックを外します。



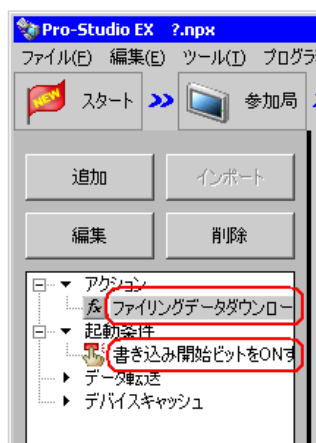
**MEMO**

- ・「受信通知」を設定すると、アクション完了後に、指定したビットデバイスが ON になります。2 つ以上のアクションを連続して実行する場合、次のアクションの起動条件として使用することができます。

☞「第 33 章 起動条件について」

3 [完了] ボタンをクリックします。

「アクション動作局 / 処理完了通知設定」画面が閉じ、画面左に、設定したアクション名および起動条件名が表示されます。



以上で、アクション動作局および処理完了通知の設定が終了しました。



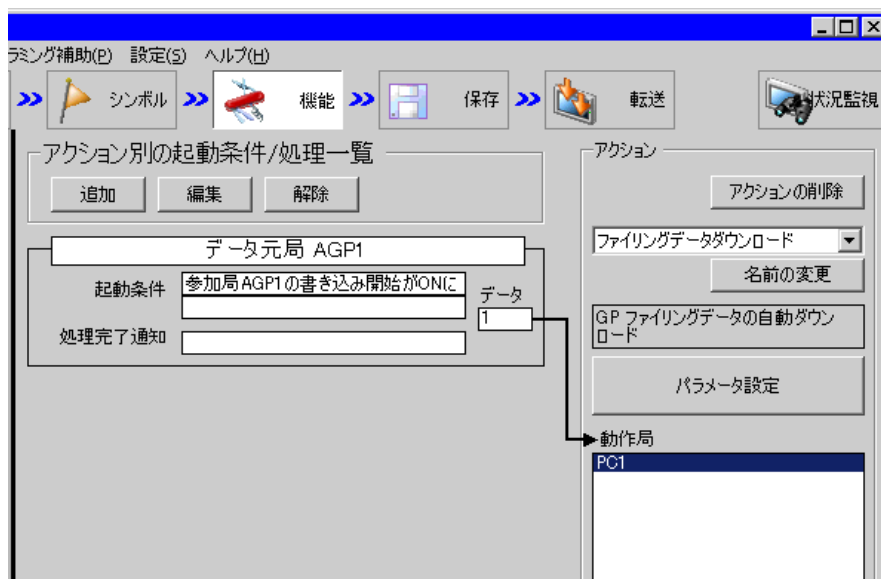
## 18.1.8 設定内容の確認

設定内容の一覧画面で、設定した内容を確認します。

- 1 画面左のツリー表示から、アクション名「ファイリングデータダウンロード」をクリックします。



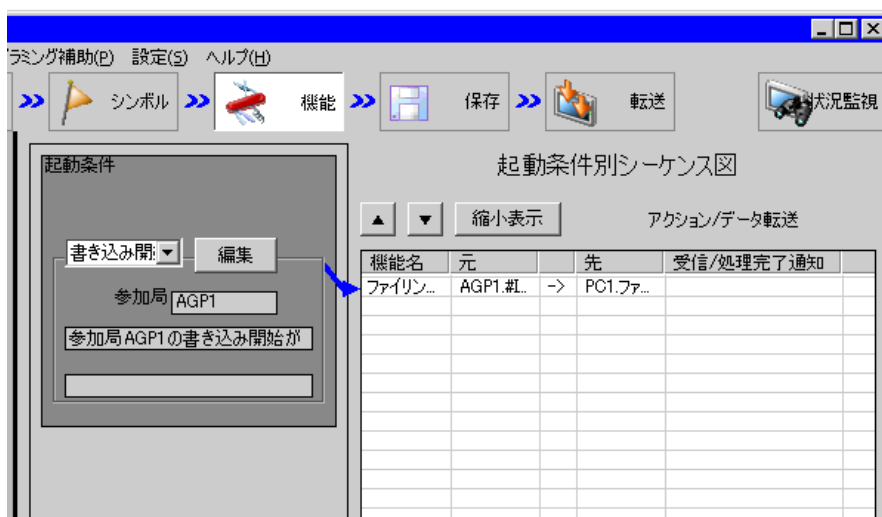
設定した内容が、画面右に表示されていることを確認します。



2 画面左のツリー表示から、起動条件名「書き込み開始ビットを ON する」をクリックします。



設定した内容が、画面右に表示されていることを確認します。



以上で、設定内容の確認が終了しました。

## 18.1.9 ネットワークプロジェクトファイルの保存

設定した内容を、ネットワークプロジェクトファイルとして保存し、『Pro-Server EX』にリロードします。

ネットワークプロジェクトファイルの保存については、「第 25 章 保存について」をご覧ください。

---

**重要**

- 『Pro-Server EX』は、ネットワークプロジェクトファイルを読み込み、そこに設定された内容によりアクションを実行します。したがって、設定した内容は必ずネットワークプロジェクトファイルとして保存する必要があります。
  - ネットワークプロジェクトファイルの『Pro-Server EX』へのリロードは必ず行ってください。リロードを行わないとアクションが動作しません。
- 

### 設定例

- ネットワークプロジェクトファイルのパス : デスクトップ¥FilingData\_download.npx
- タイトル : ファイリングデータダウンロードアクション

## 18.1.10 ネットワークプロジェクトファイルの転送

保存したネットワークプロジェクトファイルを、参加局に転送します。

ネットワークプロジェクトファイルの転送については、「第 26 章 転送について」をご覧ください。

---

**MEMO**

- ネットワークプロジェクトファイルの転送は、必ず行ってください。転送を行わないとアクションが動作しません。
- 

## 18.1.11 アクションの実行

起動条件が有効になるとアクションが動作し、ファイリングデータが表示器の CF カードの File フォルダに書き込まれます。

以上で、このアクションの説明は終了です。

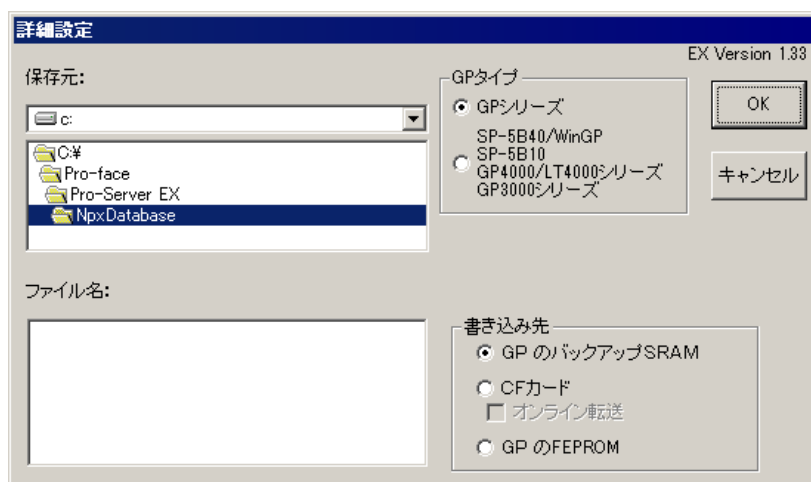
---

**MEMO**

- アクションを実行時の通信速度の向上を図りたい場合は、「第 29 章 通信を速くするひと工夫！」をご覧ください。
-

## 18.2 設定ガイド

この節では、アクションのパラメータのくわしい設定のしかたについて説明します。



設定項目	設定内容
保存元	ダウンロードするファイリングデータの保存元フォルダを選択します。 初期設定は、Cドライブ (C:) のフォルダが表示されています。 表示するドライブを変更する場合は、リストボタンをクリックし、ドライブを選択します。
ファイル名	ダウンロードするファイリングデータの保存ファイル名を選択します。
GP タイプ	ファイリングデータを書き込む表示器の参加局を選択します。
書き込み先	<p>ファイリングデータの書き込み先を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>GPのバックアップSRAM</b> 表示器のバックアップメモリ (SRAM) に書き込まれます。</li> <li>• <b>CFカード</b> 表示器内のCFカードまたはSDカードに書き込まれます。 [オンライン転送] にチェックが入っている場合、表示器が稼働中でもファイリングデータの書き込みができます。 [オンライン転送] を設定しなかった場合、書き込み中は表示器が転送画面になり、他の通信は停止します。転送終了後、初期画面に戻ります。</li> <li>• <b>GPのFEPROM</b> 表示器の内部メモリ (画面エリア) に書き込まれます。 書き込み中は表示器が転送画面になり、他の通信は停止します。転送終了後、初期画面に戻ります。</li> </ul> <p><b>MEMO</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• GPタイプが [SP-5B40/WinGP SP-5B10 GP4000/LT4000 シリーズ GP3000 シリーズ] の場合、[GPのバックアップSRAM] および [GPのFEPROM] は選択できません。 自動的に [CFカード] および [オンライン転送] がチェックされます。</li> <li>• CFカードスロットまたはSDカードスロットがない機種では、[CFカード] を選択してもファイリングデータをダウンロードすることはできません。</li> </ul>

## 18.3 制限事項

- アップロードした Excel ファイルの各シートを CSV ファイルに保存してダウンロードすることはできません。
- アップロードした CSV ファイルを Excel ファイルに集約してダウンロードすることはできません。

